

令和4年12月立山町議会定例会一般質問・質疑通告概要

(R4. 12. 14)

一般質問・質疑順番

1番	澤	井	峰	子	議員
2番	平	井	久	秋	議員
3番	坂	井	立	朗	議員
4番	後	藤	智	文	議員
5番	広	島	秀	一	議員
6番	村	上	紀	義	議員
7番	堀	田		努	議員
8番	松	倉	勝	実	議員

<一般質問・質疑>

1番 澤 井 峰 子 議員

1 町営住宅空き住戸の活用について

大阪・兵庫では、公営住宅の空き住戸を活用した生活困窮者自立支援が広がっている。

例えば就職氷河期世代や児童養護施設退所者、コロナ禍で仕事を失うなど、様々な事情で困窮している若年女性、シングルマザー等を対象としたシェアハウスを開設し、自立支援につなげている。

わが町の町営住宅においても、高齢化が進み、空き住戸も増えていることから、役員を受けの人がいない等、近い将来を心配する声を頂いている。

全国の先進的事例を調査し、今後の公営住宅のあり方を検討して頂きたいと考えるが、町の対策を伺う。

2 立山町奨学資金制度について

奨学金制度は、経済的理由により修学に困難がある優れた学生等に対して人材育成の観点から経済的支援を行う重要な教育政策である。

昨今、コロナ禍や物価高騰による家計への影響、また親の病気や死去等による突然の家計急変は、高校生の修学に不安を抱える状況となる。

立山町奨学資金制度では、毎年4月の申込期間を5月まで延長する対応をとっていただいているが、突然の家計急変にも対応できるよう、例えば年に2回の申込期間を設けること等、柔軟な対応が今後必要ではないかと考えるが、町の見解を伺う。

3 子育て支援について

(1) 「出産・子育て応援交付金」について

- ① 伴走型相談支援と経済的支援の関係性、また具体的な取り組みを伺う。
- ② 将来的にも継続的な取り組みとなるよう、伴走型相談支援を支える、オンライン相談や産後ケア、ファミリーサポートの人的確保や体制の構築をどのように取り組むかを伺う。

(2) 昨今、保育園での事故・事件が多発している。小さな子供の命を守るため、保育士をはじめとする関係職員の「健全な心身」の確保は重要である。安心して子供を預ける場、保育士として健全に働ける場の確保となるよう、町としての対策を伺う。(例：保育士等のストレスチェックなど)

4 物価高騰対策について

物価高騰対策として、児童・生徒新入学者を対象に1万ポイントの付与を行い、学用品等の購入支援をとのことだが、改めてその詳細を伺う。

(1) 申請はどのような体制を考えているか。

(2) ポイント付与先のたてポカードは児童・生徒名義のみとするのか、保護者名義でも可能とするのかを伺う。

2番 平井久秋 議員

1 新複合施設建設について

(仮称)防災センターと児童館の複合施設の建設が延期された。建設資材の高騰や半導体不足が原因とのことだが、当初予定の建設費からどのくらい高騰したのか。時間がたてば、さらに高騰することが予想される。どの段階で、どのような判断がされるのか、伺う。

2 教育について

幼少期や学童期教育は大変重要であり、この時期に学んだ基本的な知識や思考は忘れないものと思う。そこで

(1) 先進事例(朝日町、大分県由布市など)に習い、わが町で、生まれ育ったことを喜び、誇りに思い、ずっと住み続けたい、帰ってきたいと思えるような学び、例えば「立山学」というものを総合的な学習の時間に組み込めないか。

(2) 以前も質問したが、信号のない横断歩道での車の一時停止の割合トップは82.9%の長野県である。要因は特にないというが、地域や学校が50年ほど前から止まった車にお辞儀の挨拶をする指導があるという。何気ないこの教育をこの時期に行うことこそが事故防止に繋がると思うが、今一度現場の対応を伺う。

3 障害者雇用について

この春、富山労働局が障害者の法定雇用率を達成できず、改善も見られないとして適正実施勧告をした4機関に立山町も入っていた。地方自治体の法定雇用は、努力目標と聞くと、大変不名誉なことだ。改善にどのように取り組むのか、伺う。

4 消防ポンプ車免許補助について

令和元年6月にも質問したが、各分団の消防ポンプ車を運転するには、中型免許が必要だ。

答弁では、免許取得に町の補助制度はないが、県内事例を参考に研究するとのことだった。県内事例の紹介と今後の対応について伺う。

5 ごみ減量化の意識付けを

富山市がごみ処理有料化の計画を発表し、1年になる。今年に入り全ての物資が値上がりし、来年には、さらに多岐にわたり値上がりが続く。有料化を検討する前に、ごみ減量化の意識付けを促すことが必要ではないか。有料化回避に向けた取り組みを考えてはいないのか、伺う。

6 資源再活用について

下水道の汚泥から肥料の原料となるリンを回収し、国産原料とする動きがある。中新川広域行政事務組合に伺ったが、今のところ予定はないという。しかし、今後検討する余地は十二分にあると思う。わが町だけで決めることはできないが、加入自治体として事業の検討を促すことはできないか。

3番 坂井立朗 議員

1 地鉄立山線の未来について

- (1) 地鉄立山線千垣鉄橋の耐用年数(寿命)はあと何年くらいと考えるのか。
- (2) 富山地方鉄道(以下「地鉄」)として鉄橋の架け替えは可能だと思うか。
- (3) 地鉄単独での架け替えはおそらく困難であろうと思うが、沿線自治体として今後どのように関わっていくつもりか。(上下分離方式も含めて)
- (4) 最悪の場合、架け替えの断念といったケースも考えられるのか。もしそのようになった場合、鉄道の終着は横江駅となるのか、岩嶺寺駅となるのか。

2 若手及び中堅職員の教育と育成について

- (1) 今期は年度途中の人事異動が異常な状態である。あえて理由は問わないが、人事の責任者として、このような状態をどう考えているのか。
- (2) 褒めて教える、褒めて育てることが肝要であると考えているか。

4番 後藤智文 議員

1 物価高騰対策について

- (1) この間の物価高騰は、災害級に値すると思うが、どう認識されているか。
- (2) (仮称)防災センターが物価高騰のため、延期されているが、今後の予定はどのように考えているか。
- (3) 物価高騰は今後も続く予想で、町民の生活を脅かしている。生活困窮世帯や子育て世帯には支援がされているが、全世帯向けの支援として、水道基本料金の減免をしてはいかがか。
- (4) 国民健康保険の被保険者への支援として、保険税の引下げをして、負担軽減をすべきではないか。
- (5) 電気料、燃料代等の値上がりで、商工業事業者の経営が苦しくなっている。補助金を出して支援すべきではないか。
- (6) 肥料代、飼料代の値上がりで、農業者は大変困っている。富山市の「農業用物価高騰対策緊急支援事業」のような支援策を打つべきではないか。
- (7) 今予算に、物価高騰対策児童・生徒就学援助事業として、小・中・高の新入学時・生徒に対してたてぽで1万ポイントを支給する。それ自体は大変歓迎するが、マイナンバー取得を紐づける必要性はどこにあるのか。

2 町職員問題について

- (1) 中堅職員が休職・退職するケースが多い。この現状をどう認識しているか。
- (2) 町の職員定数は365名になっているが、令和3年度で232名の職員で133名の減になっている。1人の仕事量が増えていることを物語っていると思うが、過重労働になっていないか。
- (3) 舟橋村で問題になったパワハラ行為は、庁舎内では存在しないと思うが、実態はどうか。また、どのような対策を取っているか。

3 学校教育について

- (1) 不登校対策について
 - ① 不登校の生徒・児童が過去最高になっている。立山町の不登校の数は何人か。
 - ② 不登校の原因には、コロナ禍が影響していると思われるが、どう認識しているか。
 - ③ 解決には、居心地の良い学校にすることが一番だと思われる。そのためにも少人数学級こそ行き届いた教育ができると考えるがどうか。
 - ④ 不登校当事者を孤立させない支援も必要であり、保護者同士がつながれる機会を作るべきではないか。
 - ⑤ 昨年9月議会で質問した「校内フリースクール」(スペシャルサポートルーム)は「先進

事例として研究していく」との答弁だったが、不登校解決策として開設できないか。

- (2) 給食費無料化を目指すべきではないか。今までは小さな自治体で給食費が無償化されていたが、今は大きな自治体も子育て支援として無償化に舵を切っている。町としても子育て支援の一環として踏み出すべきではないか。
- (3) 学校における生理用品は予算化され、現在は保健室に常備されている。これをもう一步進めて、トイレのトイレットペーパーのように常時、トイレに設置すべきではないか。

4 保育所定員配置基準について

保育所における不祥事が毎日のように取り上げられる。その原因はどこにあるのか。保育士の低待遇と過重労働にあるように思われる。その中の一つとして、1保育士に対して4歳から5歳児が30人という保育所定員配置基準は、戦後から70数年変わっていない。他の年齢でも人数が多いと全国では定数を見直してはという声が上がっている。町の子育て支援として、安全・安心で質の高い保育を保障するために、独自に定数を定めてはどうか。

5 高校生医療費について

高校生の医療費はこの10月から無料化がなされている。大変良いことだとは思いますが、償還払になっている。働いている保護者にとって平日昼間に役場に来るのは、大変なことである。現物給付を目指していくべきではないか。

6 行政視察を終えて

- (1) 由布市の高校が存続することになった要因は、市民の決起集会や市長の4つの提案、存続させる覚悟だった。立山町長として雄山高校存続への覚悟はどうか。
- (2) 由布市は、幼・小・中・高と13年間を見通した人材教育を目指し、「由布学」として取り組んでいる。それは総合学習を使って市の将来などを学習することである。立山町でも「立山っ子」としての自覚を高めるために一貫した学習が取り入れられないか。
- (3) 九州北部豪雨災害を受けた朝倉市の教訓から伺う。豪雨時には防災行政無線が聞き取りにくいことから、サイレン吹鳴に切り替えられた。町でも無線が聞き取りにくいという声を聞くので、サイレンと併せた防災行政無線を考慮すべきではないか。

5番 広島秀一 議員

1 宿泊施設の誘致について

今年3月議会において、宿泊施設の誘致に向けて、企業側の需要等を調査把握したいと委託料を計上されていたが、現在の進捗状況は。

2 グリーンパーク吉峰の宿泊及び露天風呂の景観について

吉峰ハイツの宿泊について、予約してもなかなか取れないと聞いているがどのような現状か。

また、利用客からの要望ではあるが、サウナから出た場所にある休憩スペースを少し広げて垣根も低くし、外の景色を楽しめるようにすればどうか。

3 消防通信指令業務共同運用について

将来的に消防の広域化を目指した共同運用なのか。共同運用後に町の職員は何名程度派遣されるのか。派遣された人数分補充の採用はあるのか。派遣されるとしたら立山町からの119番通報は立山町消防署の職員が対応してくれるのか。

4 下段地内に民間業者がゴミ置き場にしているが対策は。

民間業者が産業廃棄物やゴミ等々を野積みしていて、ずっと放置されている。産業廃棄物法違反ではないか。一時的な貯め置きだとしても、3日以内と聞いている。果たしてちゃんと許可をもって仕事をしている業者なのか。

黙っていると、人知れず埋め立てをしている。道路より低い土地がいつのまにか高くなって、今では道路より高くなっている。毅然とした指導をしているのか。

警察とも協力して、ゴミ問題を解消してもらいたいが、どうか。

6番 村上紀義 議員

1 福祉施策

(1) 民生・児童委員の改選

歴史を有する民生委員制度、本年の改選では79名の皆さんが委嘱された。

住民ニーズも多様化し、様々な活動内容であり、地域の理解と行政機関の支援体制構築が急務だ。個人情報保護が活動を制約している中に負担軽減が喫緊の課題であり、活動しやすい環境づくりが急務だ。首長としての期待と支援について伺う。

(2) 生活弱者の実態把握と支援強化について

ひとり親世帯や一人暮らし高齢者等、生活弱者の一部の方が支援制度を知らず、活用していないのでは。適切な福祉サービスに繋げるきめ細かな相談が必要と思うが、町の支援体制を伺う。

(3) コロナ禍による健康被害、後遺症対応は

新型コロナウイルス感染症が発生して3年、終息が見えない。後遺症で日常生活に支障をきたしている人がいると聞く。本県の感染状況報告から推測するに6人に1人は罹患した数値となる。本町の感染者数は未発表だが、後遺症に苦しんでいる方々がいると耳にする。町として相談があった場合の対応と支援体制を伺う。

2 農業施策

(1) みどり食料システムの実現について

本年4月「みどり食料システム法」が成立した。農業分野でのCO₂排出量の実質ゼロ化、化学農薬の使用量50%低減、化学肥料使用量30%低減、有機農業取組面積割合を25%に拡大としている。本町農業の大きな変革であり厳しい条件だ。

- ① ゼロカーボンシティに挑戦している本町で農業分野での脱炭素化に向けた取組は。
- ② 環境保全型農業の直接支払交付金制度における内容と本町の取組状況は。
- ③ 有機農業の取組み拡大を目標として掲げているが、ここで言う有機農業の定義とは。
- ④ みどり食料システム戦略を実践する上で農業経営体に力強い支援策を求められるが。

(2) 肥料をはじめとした生産資材価格高騰についての対応

生産資材価格の高騰は農業経営に深刻な打撃を与えている。国は「肥料価格高騰対策」を実施するとしたが、条件が厳しく化学肥料の低減、堆肥等の国内資源活用に取り組む農業経営体のみとしている。上昇分の7割は補填し、2030年まで化学肥料の使用量を20%低減目標としている難儀な条件であり、必要な絶対量が確保されるか疑問だ。農業が基幹産業である本町において、将来を考えた支援策を伺う。

3 児童生徒

(1) 問題行動について（いじめ・不登校）

文科省は21年度の調査結果を公表した。不登校の児童生徒は約24万5千人と20年度より24.9%増加し、過去最高となった。要因として新型コロナ禍の影響がうかがえるとしている。県内の小中学校と高校では、いじめの認知件数が20年に比べ327件増え、1,539件としている。あつてはならない重要な課題だ。これらの数値を鑑み、教育委員会として本町の実態数値と所見を伺う。

(2) 安全を守るネット環境と健康

- ① コロナ禍の中にネット・ゲーム依存に陥る児童生徒が増えているのではと危惧されている。低年齢化傾向にあり、心身の健康上からも危惧されている。教育委員会として適正利用に向けた予防策についての教育指導について伺う。
- ② 長時間利用は健康に悪影響があり、適切な利用が求められる。児童生徒のスマートフォンの所持率やインターネットの利用時間をどのように把握されているのか。現状と指導について伺う。
- ③ コロナ禍対策として学校給食などで行われてきた「黙食」について、文科省がようやく「一律に必ず黙食とすることは求めない」と各市町村の教育委員会に通知した。コロナ禍で一番我慢しているのは子どもたちであり、楽しい給食の時間が過ごせるよう、町教育委員会の今後についての工程を伺う。

4 避難行動

近年の気象変動は、「記録的」「観測史上」と形容される大規模な水害や、土砂災害が毎年のように発生している。

(1) 判断は日常の積み重ね

いざ災害が起きた場合、設備の整った指定避難場所に多くの住民が避難すると考えられる。現況施設で希望避難者全員の受入れには無理があり、避難に時間を要すると思う。在宅避難も必要かつ緊急避難時には一つの判断と考えるが、災害の少ない本町、臨場感を持って夜間を含めた日常の訓練が必要と思うが町の考えを伺う。

(2) 洪水時における車両避難について

核家族化と高齢化が加速した車社会だ。いざ災害が起きた場合、車両による避難が大半を占めると思う。安全な高台・施設をはじめとした公園、グラウンド等が避難場所として指定されているが、移動中の車による事故や渋滞も想定される。避難者全員の受入れ態勢は十分に確保されるか、危惧するところだ。町の考え方を伺う。

(3) 長引くコロナ禍により自治会による防災訓練がほとんど実施されていないと聞く。人的交流も希薄となり、防災・減災の危機管理能力低下に結び付くと考え。このような中に町の防災指導や支援が必要と思うが、改めて町の考えを伺う。

7番 堀田 努 議員

1 むらいスーパー廃業後の住民支援について

11月26日にむらいスーパーの小売部門が閉店となり、五百石地区中心部、あるいは周辺部の買い物の困難が急に発生しました。いち早く行政には対応策を練って実行してもらっています。

①町内スーパー3か所へそれぞれ週1回の買い物バスの運行、②アルプス農協へ買い物支援ブース設置の依頼、既に稼働、③らいじい号の販売エリアの拡大、とくし丸の運行など、既に支援対策が実行されています。支援を必要とされる方は自動車での買い物ができない人で、むらいスーパーによると徒歩での買い物の客数は、1日約100人と聞きました。五百石地区周辺の人のみならず、電車での買い物客もいらしたとのこと。

(1) そこで、このような支援策の周知が行き届くようにさらなる徹底とらいじい号のシステムや申込み方法など、高齢者にもわかりやすく、利用者目線での案内をお願いしたいが、意見を伺いたい。

(2) 現在は徒歩で買い物される人数は100人の目安だが、将来的にさらに増えていきます。現在行っている支援を一定期間行い、分析した上で、結果によってはさらなる支援策のグレードアップを願いたい、いかがか。

(3) らいじい号の五百石・前沢地区の運行を充実してもらい、利便性の向上を目指すよう要望しますが、いかがか。

2 五百石・前沢地区における建物解体後の開発について

青葉の里・八幡湯の解体後、街なか中心部は穴があいた状態になるが、この状況の今が街なか中

心部活性化に向けての最終的な腰の上げ時と考える。町としての開発プランを問い、私からの発案についての見解を問う。

- (1) 街なか中心部に付近住民、あるいは周辺部の人たちも集えるようなコミュニティーセンターの建設を強く要望する。
- (2) 飲食店の誘致を商工会など多方面でタイアップして具現化できないか、町としての見解を問う。
- (3) 中心部にコンビニがなくなってしまったが、誘致はできないか。
- (4) その他、町のプランを問う。

3 雄山中学校教員の教育現場の環境について

夜の9時、10時に雄山中学校付近を通ると、職員室の電気がついている。こんなに遅くまで何をしているのか学校の現場で話を聞いてきた。本来の教員の仕事が終わるのが、深夜に及ぶこともしばしばとのこと。授業の終わりからの時間を聞いてみた。授業終了後、部活の顧問として生徒たちと部活動をして、終了後、生徒の下校完了がpm6:30。その後は時として保護者対応。内容がSNSによるいじめの問題も多くあるとのこと。その対応には多くの時間を要し、それが終わってようやく担任の仕事、授業に関する仕事を始めて、深夜に及ぶことも。であった。働き方改革が施行されても、いまだこのブラックさである。新任を含めた教員の教育環境は相当厳しいものと伺える。万全な肉体・精神の下、はじめて質の高い教育ができると考える。このような教育現場を見ると、教員の志望者が激減していることもうなずける。教育の質の低下にもつながるはず。小学校はpm4:00下校完了。中学校はpm6:30下校完了です。

- (1) そこで部活動の件で伺います。その前に私自身、部活動は生徒に間違いなく必要であることを強く思っていることを前提に質問します。部活動の地域移行を早急に進められないか。ある自治体では3年をかけて完全移行を目指すとのこと。中学校の教育現場を見ると部活の地域移行が急務と考えるが、町の見解を聞く。

4 「富山は立山登山の表玄関」の再認識

北陸新幹線が開通し、立山黒部アルペンルートの入り込み客数が、コロナ前まで年間100万人前後で推移していた。コロナ禍の中では、天候不順も影響して相当数の落ち込みになった。今年はいぶん持ち直したということで安心している。わが立山町にある立山アルペンルートは、お隣石川県では観光資源として羨ましい限りのはず。立山への一般的ルートは、富山からと、長野県大町市からとがある。大町ルートでは新宿駅から8時ちょうどのあずき号に乗った場合、室堂にはpm2:30に到着。一方、東京駅am7:20発のかがやき号に乗れば室堂にはpm0:50に着き、余裕を持ってその日に立山に登ることができる。若干交通費が高いが、快適さと時短で立山登山の玄関口と強力にアピールするべきと考える。また、立山線を使ってもらうために、観光目的の利用者にノベルティーを渡すのも一考と思う。

県とのタイアップも当然必要と思うが、町としての考えを問う。

8番 松倉勝実議員

1 立山町における中小零細企業排水が、河川の汚染をもたらす実態と対策について伺う

今日、公害基準が厳しくなり、河川の透明度も良くなり生息する生物にも影響がないようになっているとの認識を持っている。

実際のところ、どれだけの企業等が河川への排水を行っているのか。そして、住民からの苦情はあげられているのか。当局の対策と周知公表について伺いたい。(①町全体での河川排水数、②そのうち住民から変色悪臭等の苦情の数、③当局の対策と公表について)

2 立山町における教育機関での登校拒否の実態と原因対策について伺う

今年もいじめと思われる登校拒否生の自殺が発生している。実際、わが町の登校拒否児童、生徒の、その実態を伺いたい。その原因と対策についても伺いたい。

特にいじめに起因する登校拒否は、陰湿で許されない。いじめは、いじめられている本人の立場に立っての対策を講じてほしい。(①登校拒否数各教育機関別、②原因別の数、③対策、④いじめによるものについては、いじめられている本人、家族に立っての対応を望む。)

3 立山町における駅構内の観光 PR について伺う

わが町には、立山線、地鉄本線、あわせて13駅ある。掲示には、富山地方鉄道の許可がいる。私の知る限り、立山駅以外にPR用のポスターを見たことがない。是非とも、各駅にポスターの掲示を請う。特に寺田駅は、たくさん掲示可能です。

ちなみに、わが町には、立山黒部アルペンルートの駅がある。ここには当然掲示がされている。私の知る限り、日本一の観光箇所が10以上存在する。これをすべて観光ポスターにして掲示してほしい。(①各駅構内でのポスター掲示、②日本一を宣言する箇所のポスター作製と掲示)

4 立山町における交差点信号、深夜から早朝間の赤黄色点滅の実態とその齟齬について

立山町には、どれだけの信号があり、そのうち、深夜早朝間赤黄色点滅信号の数を教えてほしい。そして、それぞれが住民になるほどと理解されているのか知りたい。実際交通量的には、なぜこちらが赤点滅なのかという素朴な疑問が寄せられている。

同じ路線上で、正常の信号(昼間の青赤黄色信号)と赤黄色点滅の違いについて、どういう判断基準で選別しているのか答えてほしい。(①立山町の信号数、②赤黄色点滅の数、③住民からの苦情の有無、④どういう判断基準で選別しているか)

5 立山信仰布橋灌頂会における雅楽の独自演奏者養成について問う

無形文化財として、今後、継承発展させていく上で必要不可欠と考える。現在は、他県や同県他市に演奏をお願いしている。雄山中学、雄山高校の在校生卒業生で養成継承していく方途を創っていただきたい。これが、中高一貫教育にもなるし、雄山高校の存続にも発展すると考えるが、見解を問う。(①独自演奏者養成を考えているか、②養成が中高一貫教育のモデルとなり雄山高校の存続に通じるとの考えについて見解を問う)

6 立山町観光トランプ、方言トランプを製作し土産品、他県の友達へのプレゼント、ふるさと納税品として使用する

トランプは、パソコン携帯のゲーム等に押されているが、その価値はまだまだ衰えない。立山町の魅力ある観光写真と方言でトランプを製作し、お土産品として観光地で販売する。町民に他県の友達にプレゼントとして使用してもらおう。町長はじめ議員等々の交際に使ってもらおう。ふるさと納税品として使う。企業に使ってもらおう。等々用途はあると考えるが見解を問う。(①観光トランプ、方言トランプ製作について、②お土産品、他県の友達へのプレゼント、交際品としての用途、ふるさと納税品としての用途について見解を問う)

7 カーボンニュートラル対策として立山線、地鉄本線の活用を図る

現在、車社会の真ただ中にある。富山は、1世帯当たりの所有数が全国2位である。そこで、寺田駅東側に耕作放棄の土地がたくさんある。ここに無料駐車場を設ける。

また、町営バス停を積極的に寺田駅はじめ各駅に設けることにより、電車の活用を図ることになる。カーボンニュートラル対策となると思うが、所見を問う。(①寺田駅東側耕作放棄地の購入と駐車場にして寺田駅利用者増加を図る、②町営バスの停車地に駅を加え利用者の増加を図る)

8 富山県最大の円形古墳稚児塚の管理について伺う

そもそも、古墳の管理は富山県が管轄と思うが正しいか。

町としても、誇りとその運営に携わることに責任も持ってほしい。今、地域で問題なのは、雑木の処理と、伸び放題の枝の処理である。加えて、外周が個人の水田であるためトラクターはじめ田植え機やコンバインの操作に枝が邪魔になること等である。

そこで、この外周は、昔、円形の濠であったようである。そのまま、耕作地もドーナツ状となっており耕作不向きな土地である。町から県へ「購入して公園整備を行ってほしい旨」を要請してもらいたい。町長の見解を伺いたい。(①稚児塚古墳管理は、県なのか町なのか、②町として、歴史的遺産としてリスペクトされているか、③外周水田の購入を図り、県に要請し積極的に公園整備に関わってほしい)